

2018年度 事業及び活動報告

1. 認定特定非営利活動に係わる事業報告

定款に基づき事業活動を進めました。今年度も活動及び事業をより多く方に知って頂くために、いろいろなイベントや異業種交流会に出席しました。

特別養護老人ホームへ出張販売を行い入居者の方々に喜んで頂いた事は、新たな活動の広がりになりました。また若い人たちにチャリティショップの存在と活動を知ってもらう機会として、市内の中学校6校すべてから職業体験場所としてWEショップで受け入れを行いました。様々な年齢の方にショップの存在を知って頂き、広がっていくことを期待したいと思います。昨年度「株式会社 リコー」の社会貢献クラブ FriiWill から頂いた寄附金で店内のハンガーやラックを新しく揃えることができました。明るくなったと来店者からも好評です。(株)リコーへの出張販売も2回させていただきました。

今年度も再提供者や新規提供数が昨年を上回りました。ボランティア参加で毎月チラシ配布をしたことやFacebookでの情報提供が大きな要因だと思います。売り上げが前年より伸びたことは毎月のようにショップ企画を考え実行できたことも大きな力になりました。

このような努力をした結果、支援金も昨年より多く出すことができました。

2. 事業内容及び活動内容報告

1) 資源のリユース・リサイクルを推進する事業 (リユース・リサイクル事業)

(1) 事業報告

- ① 市民の皆様からの寄付提供品 (不要になった衣類、日用品など) を販売し、スタッフと多くのボランティアでWEショップを運営しました。
- ② 安定したショップ業務を展開するため、毎月スタッフ会議を開催し、さまざまな課題について話し合いました。感謝祭やフェアなどのイベントを企画し、理事会に提案し、以下のように実行しました。

2018年度 感謝祭・フェア一覧

実施月	企画内容	売上金額
6月 1ヶ月間	夏のご支援・優待券配布期間	
7月1~31日 1ヶ月間	夏のご支援・優待券利用期間	586,220円
8月24~27日 4日間	バッグフェア	293,594円
9月18~30日 11日間	コートマルシェ	114,415円
10月 1ヶ月間	秋のご支援・優待券配布期間	
11月1~30日 1ヶ月間	秋のご支援・優待券利用期間	765,113円
2019年1月4,5,6日 3日間	初春まつり	49,781円
2月22~25日 4日間	和のものフェア	407,748円
3月18~23日 5日間	食器・アクセサリー市	113,848円

フェアなどのイベントを開催することで、多くのお客様に足を運んでいただくことが出来ました。また、買うほどお得セールを行い売上につなげました。

開催後には反省会を実施し、次年度へ向けて様々な意見交換を行いました。

- ③ ボランティアに研修を行う予定でしたが、参加者が少なく実行できませんでした。次年度の開催に向けて計画を立てています。
- ④ ボランティアミーティングをボランティア参加者に必要に応じて行いました。毎月の理事会で討議決定された内容で、共有したい事柄を中心に原稿を作成し、伝えました。ボランティアからの意見を聞く良い機会ともなりました。
- ⑤ チャリティショップであることを、様々なツールを利用して発信できました。Facebook ページを開設し、イベントやキャンペーンについて情報を発信し、WE ショップで買い物することの意味を伝える努力をしました。
- ⑥ 様々なイベントに参加し、WE21 ジャパン海老名、WE ショップえびなを市民にアピールすることができました。
 - ・商工会主催
商工フェア，地元で買ってラッキーチャンス，得する街のゼミナール
 - ・えびな市民活動センター主催
ビナレッジ6周年記念祭
- ⑦ リメイクチーム活動を支援しました。
“WE21 ジャパン海老名 リメイクボランティアに関する申し合わせ”を基にリメイク作品制作及び販売を支援しました。その他、課題が出たときはリメイクチームの会議やスタッフ会議で意見交換を行いました。
- ⑧ ユース・ボランティアと職場体験学習を受け入れました。
中学生・高校生を受け入れ、WE ショップの役目について伝えることができました。

(2) 活動報告

- ① 企業組合ワーコレ・キャリーを通じエコものセンターを活用しました。
季節外の寄付提供品をストックし、有効な寄付提供品の管理、活用に努めました。
- ② 環境問題に貢献しているナカノ（株）と連携して、衣類に関しては最後までリサイクル化に努めました。 月2回 3,717kg/年間
2018年4月から2019年3月までの12ヶ月間

*販売品としてショップに出せなかった木綿類は、地域NPO法人の福祉施設へ提供することで、有効活用につなぐことが出来ました。
- ③ ショップで販売出来なかったガラス製品は(有)飯室商店、陶器は木村管工(株)を通じて再資源化に努めました。
内 容 リユース・リサイクル事業 (WE ショップえびな運営)
日 時 通年

場 所	海老名市中央一丁目 14 番 46 号 チェリーコート海老名 103
従事者人数	スタッフ 3 人、ボランティア総人数 58 人
受益対象者	一般市民
収 入 額	7,029,381 円
支 出 額	6,146,825 円

2) アジアなどにおける市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を通じて支援する事業（民際支援事業）

(1) 事業報告

- ① 支援先の人々の問題解決に向けて、地域の人々の課題解決に向けて、共に考え、共に育ち、共に生きる社会の創造を目指し、海外支援の助成をしました。

海外支援先として南スーダンとパレスチナを継続支援としました。

南スーダンの現状を知るために JVC（日本国際ボランティアセンター）の代表理事による南スーダン報告会を 1 月に開催しました。

避難民キャンプ地で野菜作りをして収穫物を得ることができるようになり、現在では、支援された製粉機で落花生をペーストにしたり、オクラを粉末にしたりして市場で販売できるようになっています。女性グループは、製粉機の燃料やエンジンオイルの交換、修理、利用料の徴収、金銭の管理なども出来るようになり、自立への道を着実に歩んでいます。

パレスチナ・ガザ地区はイスラエルによる厳しい封鎖や軍事攻撃により、経済は壊滅状態にあります。2018 年 3 月から始まった「帰還の進行」デモに対するイスラエルの攻撃により、状況は更に厳しくなっています。子ども達の栄養失調や貧血の割合は非常に高く、国連レポートは 2 歳以下の子どもの 60~70% が貧血であると報告しています。恒常的な栄養不良は長期的な発育にも悪影響をおよぼし、健全な成長の機会を奪っています。

チョコ募金はイラク、福島子どもたちとシリアの難民を支援するための募金です。今年は㈱リコー・社会貢献クラブ Free Will の協力でショップの出張販売と共にチョコ募金の呼びかけをすることができ例年以上の募金を送ることができました。

クリスマスに合わせてフィリピン子どもたちにクレヨンをプレゼントするレインボーキャンペーンは 10 年目になりました。フィリピンのベンゲット州で活動をする現地の NGO 団体 IYAMAN(イヤマン)の環境教育プロジェクトの一環で、クリスマス時期に実施するレインボーキャンペーンは、毎年多くの小学校に通う子どもたちにクレヨンを届けています。

・パレスチナ・ガザ地区

JVC(日本国際ボランティアセンター)・子どもの栄養失調予防事業

支援7年目になります。JVCは、栄養失調の子どもたちに直接支援を届けることから子どもたちをその地域社会が守っていくことができる仕組みづくりの活動に取り組んでいます。2014年7月から始まったイスラエルによる大規模侵攻後、2015年10月からジャベリヤ市ビルナー ज्याで子どもの栄養失調予防事業を再開しました。2016年度もこの事業に取り組み、この事業によって地域保健ボランティアと母親たちの知識と技術の向上が認められ、子どもの栄養状態が飛躍的に改善されました。その実績が認められ、ユニセフとの協同が実現し、新しい地域で活動を実施しています。しかし、2018年3月から始まった「帰還の進行」デモに対するイスラエルの攻撃により、多数の死者と負傷者が出ており、人々の暮らしは悪化する一方です。この事業のための資金が足りない状況になっています。

・貧困なくそうキャンペーン (9月10日～10月16日)

JVC(日本国際ボランティアセンター)・南スーダン首都ジュバ郊外

「国内難民キャンプでの子どもの就学機会拡大支援と女性の自立支援プロジェクト」

2017年3月に職員を派遣して食料や医薬品の支援を実施しています。紛争が続く中、軍・武装勢力による住民への暴力、食料の欠乏と超インフレが続く南スーダン。2017年度は、ジュバに活動の拠点を置き、日本人職員を定期的に派遣しながら、紛争下を生き抜こうとする人びとへの継続的な支援を行っています。2017年12月には大統領派政府と反政府勢力との間で停戦合意が結ばれましたが、一部の地域では戦闘が勃発し、人々が安心して戻るには程遠い状況です。難民の大多数は、女性と子どもの世帯で、避難生活の長期化が予想される中、不安定な支援に依存するだけでなく、どうやって自分の手で生活を維持するのか、また、子どもたちの教育をどうするのか、切実な課題です。JVCはこのような状況を考慮し、国内難民キャンプの子どもたちの就学支援と女性たちの生活向上活動の支援をしています。

・レインボーキャンペーン (フィリピン) (11月1日～11月30日)

イヤマンの子どもたちにクレヨンをプレゼント

フィリピンの子どもたちにクリスマスプレゼントとしてクレヨンを贈る「レインボーキャンペーン」は10年目になりました。期間を設けて募金への協力を呼び掛けていますが、今年は284人分のクレヨンをプレゼントすることができました。生まれて初めて自分のクレヨンを手にする機会を多くし大勢の子どものもとに届けられるように今後も継続していきます。

② 東日本大震災復興支援に助成をしました。

3/11を忘れないキャンペーン (1月15日～3月31日)

今年度も継続支援先として7年目になる「母ちゃんず」、5年目になる子どもの甲状腺検査プロジェクト・いわき放射能市民測定室「たらちね」の2団体に支援金を送りました。

「母ちゃんず」は1月に支援部会員3名が「母ちゃんず」の代表と会い、キャンプの開催状況などの聞きとりをしました。7年目になる保養キャンプは回数を減らし、定員を抑えることで無理のないキャンプになっているようです。

「いわき放射能市民測定室・たらちね」は、2011年3月の原発事故をきっかけに、

その年の 11 月にいわき市の主婦が中心となって立ち上げた NPO 法人です。2017 年 5 月に「たらちねクリニック」を開設し診療を始めています。

・「母ちゃんず」の企画・運営費

「母ちゃんず」は相模原市のお母さんたちが、2011 年 10 月に発足し、2012 年春から保養キャンプを企画、運営している団体です。放射線量の高いところで生活していると思うように外遊びができない福島の子どもたちに外遊びを楽しんでもらい、親子でリフレッシュできるような場を提供しています。

今年も 2 回の保養キャンプを行い 7 年間で計 15 回のキャンプになりました。短期間でも放射線の低い場所で過ごすことで体内に取り込んだ放射性物質を排出させるといわれています。前年の春キャンプは参加人数が少なかったため、PR に努め夏キャンプは 13 家族 34 名の参加者となり、初めて参加した家族が 8 組ありました。まだまだ必要とされています。

・子どもの甲状腺検査プロジェクト・いわき放射能市民測定室・「たらちね」
食材・土壌・身体放射能測定や福島の子どもを保養プロジェクト

震災時 18 歳以下だった子供を持っている保護者たちの不安に答えるため、画像診断と触診による甲状腺検査を無料で行っています。

甲状腺検査のほかに、ホールボディカウンター検査（身体全体の被ばく量の検査）、食品・土・海水・屋内のゴミなどの放射能の測定、β線の測定をしています。

昨年 5 月に開設した「たらちねクリニック（測定室兼検診センター）」は、地域の子どもたちが健康に成長できることを願っています。今後の健康に備えるための「子どもドッグ」を無料で行い、来院する母親たちにとって放射能に関する不安や疑問などをストレスなしで話せる重要な場所になっています。いわき市以外に県内外に出張検診を行っています。

③ 海外支援助成費及び東日本大震災支援金及び各募金総額 632,277 円

2018 年度 WE21 ジャパン海老名支援先・支援金額（店頭募金・寄付金を含む）一覧

支援国	支援先	プロジェクト名	金額	実施年数
パレスチナ	JVC パレスチナの活動支援	ガザ:こどもの栄養失調予防事業	100,000 円	8 年目
南スーダン	JVC 南スーダン緊急募金	貧困なくそうキャンペーン 南スーダン、首都ジュバ郊外「国内難民キャンプでの子どもの就学機会拡大と女性の自立支援プロジェクト」	117,333 円 (内募金 6,627 円)	12 年目
フィリピン	IYAMAN Association. Inc	クリスマス 「レインボーキャンペーン」	14,201 円(募金)	10 年目
シリア、イラク 日本	ジムネット	チョコ募金	66,822 円	5 年目
アフガニスタン	JVC アフガニスタン・ 学校教育支援	アフガニスタン学校教育事業	3,284 円	2 年目
日本	相模原市 「母ちゃんず」	母ちゃんず～福島の子ども たちを守りたい保養キャンプ	154,026 円 (内募金 5,858 円)	7 年目

日本	福島県いわき市 いわき放射能市民 測定室・たらちね	食材・土壌・身体の放射能 測定や福島の子どもを 保養プロジェクト	154,025 円 (内募金 5,857 円)	5 年目
日本	セーブ・ザ・チルドレン・ ジャパン	西日本豪雨	22,586 円 (内募金 17,586 円)	緊急支援
		計	632,277 円	

**WE21 ジャパン県央地域共催の WE 講座「おしどりマコ&ケントークライブ」
のチケット販売による収益金を寄付しました**

国	支援先	金額
日本	沖縄・球美の里	58,613 円

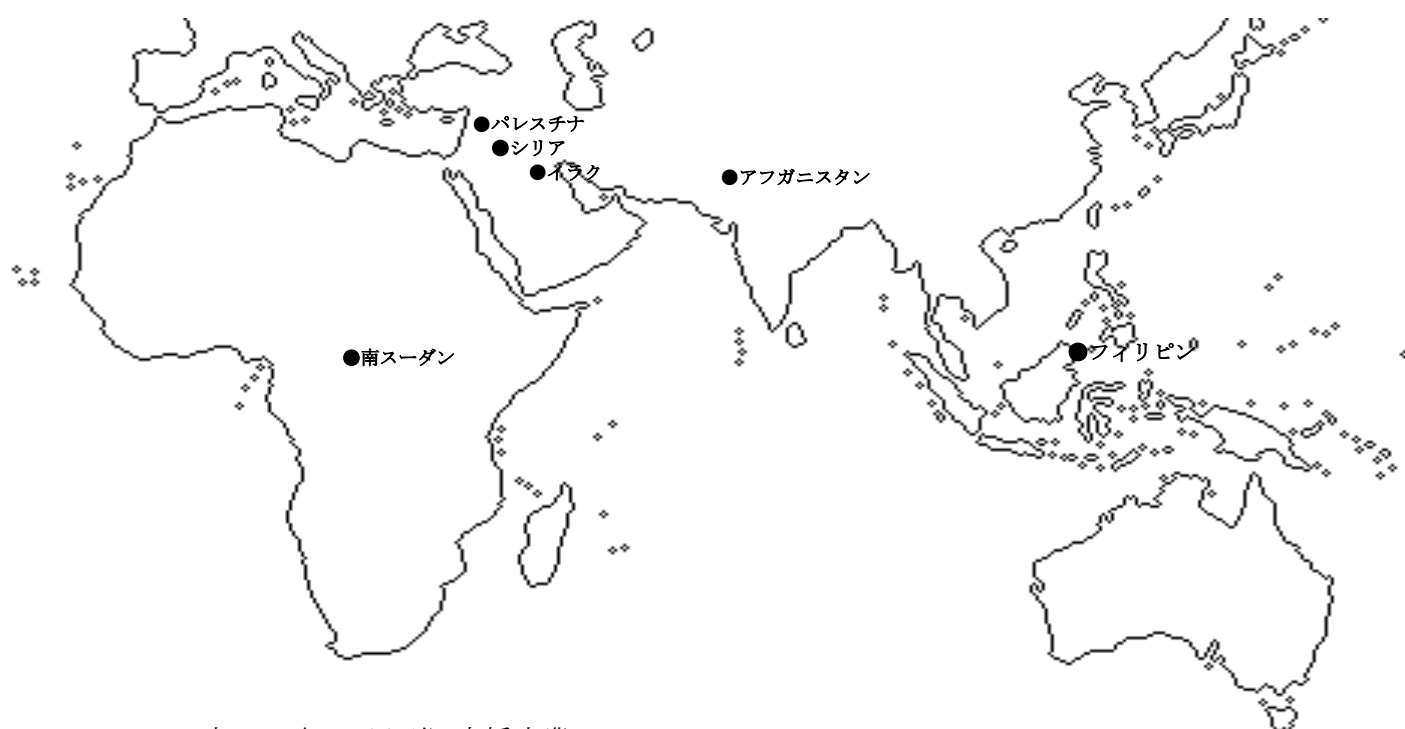
④ WE トレード品の取り組みをしました

- ・ジンジャーティ、アシーラ石鹸の取り組みを通年行いました。
- ・「3.11 を忘れないキャンペーン」(1 月 15 日～3 月 31 日)では、いわき市の物産品、宮城県気仙沼市の海産物・スープなどの取り組みを今年度も行いました。3 月 24 日に開催されたビナレッジ祭に「WE ショップえびな」は出店し、復興支援物産として商品の販売をしました。物産品は好評でたくさんの方々にお買い上げいただくことができました。東日本大震災を記憶にとどめ、関心を持ち続けていくために共に歩み続けます。

WE トレード仕入 (2018 年 4 月～2019 年 3 月)

国	WE トレード品	送金先	仕入金額
フィリピン	ジンジャーティ	ウバパス, ダイヨコン ランダバ	49,100 円
パレスチナ	アシーラ石鹸	フレンズオブアシーラ	21,078 円
日本	海産物	西野食品(株)	22,162 円
日本	海産物	(有)ムラカミ (宮城県)	221,800 円
日本	和菓子	菓匠庵 (福島県)	42,858 円
日本	フェアトレード品	SVA クラフト・エイド	21,630 円
日本	フェアトレード品	ネパリ・バザーロ	15,628 円
日本	フェアトレード品	シサム工房	4,914 円
		計	399,170 円

- ⑤ 支援部会は、情報交換を含めた共育活動を行い、支援体制を整えていきました。
- ・年9回の部会を開催し、理事会で決定したことを共有するとともに、理事会に責任を持って支援先の提案をしました。
 - ・ショップに支援先情報コーナーを通年設置しました。また、年3回のキャンペーンに合わせて、スタッフとともに店内掲示の工夫をしました。キャンペーン中は、支援部会員が参加し、物産品のアピール、募金などの呼びかけをしました。
 - ・支援先である相模原市の「母ちゃんず」と話し合いを持ちました。
 - ・共育部会と共に WE 講座を開催しました。今年度は海外支援先の JVC(日本国際ボランティアセンター)の代表理事・今井高樹氏に南スーダン報告会として話を伺いました。「紛争の中で生きる人々と私たちの支援」の演題でしたが、JVCが南スーダンでいかに活動しているかを知ることができました。



内 容	民 際 支 援 事 業
日 時	通 年
場 所	海老名市中央一丁目 14 番 46 号 チェリーコート海老名 103
従事者人数	ボランティア、会員 6 人
受益対象者	海外支援先の人々、東日本大震災被災地者及び一般市民
収 入 額	641,138 円
支 出 額	1,041,439 円

地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業（共育事業）

(1) 事業

WE21 ジャパン海老名の共育事業を推進していくために、WE 講座を 2 回、開催しました。第 1 回は県央地域の WE の仲間が集まり、海老名市文化会館の小ホールで「おしどりマコ&ケントークライブ」を開催し、多くの方に来場して頂きました。

第2回は私達の支援先である JVC（日本国際ボランティアセンター）の代表の今井高樹氏の報告会を開催しました。

① 第1回 WE 講座

日 時 2018年6月1日（金）
共 催 綾瀬、厚木、伊勢原、相模原、座間、大和
演 題 「おしどりマコ&ケントークライブ」
内 容 ニュースが伝えない福島原発
出 演 マコ&ケン
場 所 海老名市文化会館小ホール（333席）
後 援 海老名市、海老名市教育委員会、WE21 ジャパン
観 客 227名（チケット販売274枚）

福島原発事故後、東京電力の記者会見、省庁や地方自治体の会見、裁判、議会傍聴、学会などを徹底的に取材。現地にも何度も足を運び実情を調査し、様々な媒体を通して公開するとともに日本各地で軽妙なトークライブで伝えています。

② 第2回 WE 講座

日 時 2019年1月20日（日）
共 催 支援部会
演 題 「南スーダン報告会」
内 容 南スーダンの現場からの報告
講 師 今井 高樹 氏（日本国際ボランティアセンター代表）
参 加 24人

(2) 活動

① 小学校の夏休み中の体験学習・遊びの場の提供を目的に開催されている海老名市各小学校応援団主催の「えびなっ子スクール」に「廃油を使用したローソク作り」の出前講座で参加しました。

- ・7月24日（火） 上星小学校 中止
- ・7月25日（水） 海老名小学校
参加：児童 24人 ボランティア 6人
- ・7月26日（木） 有鹿小学校
参加：児童 27人 ボランティア 4人
- ・7月27日（金） 杉久保小学校
参加：児童 34人 ボランティア 8人

*作成したローソクは見て楽しむだけでなく、災害時の明かりや多少の火力になる事も実験を通して伝えました。又、廃油は海老名市資源課の協力で集めることが出来ました。

② 海老名市社会福祉協議会主催の体験学習の一環としてのユース・ボランティアをショップに受け入れました。

- ・7月20日（金） オリエンテーション

場所：海老名市総合福祉会館
ショップにてボランティア参加：5人
・8月23日（木） ユース・ボランティア体験報告会
場所：海老名市総合福祉会館

内 容	共育事業
日 時	通年
場 所	海老名市中央一丁目14番46号 チェリーコート海老名 103
従事者人数	ボランティア1人、会員 3人
受益対象者	一般市民
収入額	153,000円
支出額	207,937円

4) この法人の事業の広報普及を図る事業（広報事業）

(1) 事業報告

WE21 ジャパン海老名の支援事業及び運動を紹介し、支援を広げていくために「WE21 ジャパン海老名ニュース」の発行や、その他の広報手段を使い広報普及に努めました。見やすいチラシ作りに努め、毎月作成し地域に配りました。今年度は WE21 ジャパン海老名を知ってもらうために、企業向け紹介パンフレットを作成しました。

① WE21 ジャパン海老名ニュースを年4回発行しました。

Vol 58 発行6月30日（2面）カラー700部

内容 総会報告、2017年度の支援金のお知らせ、WE 講座報告
バッグフェア開催のお知らせ、寄付金、募金の呼びかけ
夏季休業のお知らせ、日曜日営業のお知らせ

Vol 59 発行9月30日（4面）カラー800部

内容 貧困なくそうキャンペーンのお知らせ、支援先シリーズ南スーダンニュースボランティア感想（感想文 夏休みボランティア体験者5名）
インターン感想（感想文 夏休みボランティア体験者1名）
8月バッグフェア報告
寄付品・寄付金・募金・ボランティアの呼びかけ
えびなっ子スクール報告/アンケート結果

Vol 60 発行12月20日（4面）カラー700部

内容 WE 講座のお知らせ、レインボーキャンペーン報告
リメイクチーム紹介
貧困なくそうキャンペーンの報告
3.11 忘れないキャンペーンのお知らせ、チョコ募金のお知らせ
ショップからのお知らせ（年末年始の休業、和のものフェア、初売り）

Vol 61 発行 3月 31日 (2面) カラー700部

内容 第53回 WE 講座報告

総会のお知らせ、寄付提供依頼、ボランティア募集

3.11を忘れないキャンペーン報告

和のものフェア報告、チョコ募金報告、まちゼミ報告、

中学生職業体験報告

- ② 毎月部会を行い、WE21 ジャパン海老名ニュースやチラシの内容を検討し、理事会に提案しました。
- ③ Facebook を活用し、最新な情報の発信に取り組みました。ホームページは、もう一つの広報手段として有効なものだという認識の下、WE21 ジャパン海老名の活動やお知らせなどの書き換えを行いました。
- ④ WE21 ジャパン海老名の活動紹介やショップの場所や各種イベントを市民に知らせるカラーチラシを作成しました。今年度は、ボランティアと共に毎月配布しました。これにより、提供者と来店者の拡大を図ることができました。
- | | |
|------------------------------------|----------|
| ・海老名市内 | 26,000 枚 |
| ・その他店頭で毎回 200~300 枚 (年間 約 3,000 枚) | |
| ・年間チラシ | 12,000 枚 |
| ・支援チラシ | 1,100 枚 |
| チラシ総合計 | 42,100 枚 |
- ⑤ ショップイベント毎にポスターなどを作成し、お客様へアピールをしました。
- ⑥ 昨年度支援した支援先情報を載せたチラシを作成しました。

内 容 広報事業

日 時 通年

場 所 海老名市中央一丁目 14 番 46 号 チェリーコート海老名 103

従事者人数 ボランティア、会員 5 人

受益対象者 一般市民

支 出 額 83,164 円

5) その他、第3条の目的達成に必要な事業（組織活動）

- ① 理事会を毎月定期的で開催しました。代表者会で起案の検討を行い、提案しました。各部会、関係者からの起案を含め総会で決定した事業計画を遂行しました。また時間的に理事会決定ができない案件については、電磁的方法で臨機応変に対応しました。
- ② WE21 ジャパンと「WE21 ジャパンの目的を達するための合意書」を交わし、定款の目的を達成するために組織活動の充実を図りました。「リユース・リサイクル環境事業委託費」を支払い、使用する倉庫、配送業務、および全国からの寄付品対応に係る業務の経費を支払いました。WE21 ジャパンの理念の実現に向けて連携して活動を進めました。
WE21 物流経費 436,405 円 WE21 商標使用料 120,000 円
WE21 グループ活動推進費 59,000 円
合計 615,405 円
- ③ WE21 ジャパン海老名の会員へ定期的に理事会議事録と海老名ニュース等の機関紙を送付し、情報の共有化を図り。会員の活動への参加も呼びかけています。(年4回)
- ④ WE21 ジャパン海老名の活動に支援して下さる会員の目標を
・個人会員 102人 年会費 1,500 円
団体会員 4団体 年会費 5,000 円 合計 106人で、目標(109人)を達成できませんでした。
- ⑤ 神奈川県指定特定非営利活動法人再取得。海老名市指定特定非営利活動法人の再取得もでき、認定も更新することができました。これですべて3つの指定と認定を更新することができました。認定を取得した他の地域NPOと情報の交換は特に行いませんでした。
- ⑥ 海老名市に対して、環境問題解決に向けての活動を行っていること、民際交流・支援を通し平和活動をしていることをさらにアピールするための具体的な活動はできませんでした。また市の指定を受けていますが、市民へのメリットに対し、取得団体の活動に対するメリットを設置するように市に要望する予定でしたが、できませんでした。来年度は早くから話し合いを進めたいと思っています。
- ⑦ 地域における生活クラブ運動グループの「コミュニティ・オプティマム福祉マネジメントユニット会議」及び「居場所を考える会」に代表メンバーを送り情報の共有化を図りました。
- ⑧ 海老名市教育委員会の依頼で、市内中学校の職場体験提供場所として市内6中学校すべてを受け入れました。(12人)

- ⑨ 地域商店会における活動の連携を積極的に実践しました。地域の商店会活動に参加するとともに WE ショップへの理解を高める努力をしました。また地域企業へ作成した資料を活かした訪問は行うことができませんでした。
- ⑩ 海老名市が主催する、「えびな環境フェスティバル」等に参加し、WE21 ジャパン海老名の活動をアピールしました。チャリティショップであることをもっと大きく掲げ、利潤追求型の店舗との違いを示すために様々な場面でチャリティショップという言葉を使っていきました。3 つの法人格を持つ団体としての責任を果たすための活動に力を出しました。
- ⑪ 地域大型店（イオン海老名店）黄色いレシートキャンペーンに今年も参加しました。参加の機会を活かし、不特定の市民へ活動をアピールしました。
- ⑫ 今年度初めて、以前から行いたいと思っていた、福祉施設への出張販売を行うことができました。特別養護老人ホーム「和心」のお祭りへの参加依頼を頂いた事で実現できました。今後とも依頼があれば参加していきます。
- ⑬ 4月と12月に(株)リコーへCSRの事業として行われた販売に東北支援や品や、衣類雑貨などを販売することができました。社員の皆さんに WE21 ジャパン海老名の事業を理解して頂く機会になりました。
- ⑭ 判走型小規模事業者支援推進事業の診断を受けた結果を生かして新たに作成した5カ年計画目標2年目に向け計画を達成するための方法は、ショップイベントのために時間が取られ検討するに至りませんでした。
- ⑮ SDG s の学習会を行い自分たちでできることを考える機会となりました。来店者に買い物袋持参を呼びかけました。今後もできることから始めたいと思います。
- ⑯ 自然エネルギー電力会社への変更を協議しましたが、まだ結論は出ていません。次年度には実現していきたいと考えます。

内 容	組織活動
個人会費	154,500 円 (103 人)
団体会費	15,000 円 (3 団体)
寄 付	69,615 円
収入合計	507,357 円
支出額	738,461 円

*赤字分はリユース・リサイクル推進事業より繰入